

淡路宗務支所報「海響」

[第25号]

令和7年(2025) 3月15日

題字・弘法大師筆

発行所
高野山真言宗淡路宗務支所
支所長 鈴木 瞭 導
兵庫県洲本市五色町都志1344
多聞寺中 TEL0799(33)0736

お大師さまのことば

衆生の貪と悲との毒には
戒品最も清浄にすべし

【宗秘論】

人間の食欲や怒りの弊害に
対しては、戒の教えが最も
清らかにする

人間のものつ根元的な三つの煩惱である貪瞋痴(とんじんち)。これらは、仏教で心の三毒と言われています。貪とは、むさばることで食欲に際限なくあれこれ欲することです。動物的欲求や物欲、あるいは金銭欲が強すぎるのが、貪といわれます。

次に、瞋とは、簡単に言えば感情をぶちまけること。不快なものに対して激しく怒ったり、妬んだり、恨んだりすることです。最後に痴とは無知であること。自己弁護に走ったり、常識知らずで自己利益しか考えないようなことです。

つまり貪瞋痴は、食欲だったり、感情の抑制が効かなかったり、また自分勝手なさまを「貪(むさぼり)」「瞋(いかり)」「痴(おろかさ)」の一字ずつにあて表した言葉です。誰しも怒るといふ瞬間はあるので、「瞋」が一番身近かもしれません。

そもそも怒りとは何なのでしょう。怒りとは我々の中にある『べき』なのです。例えば、相手が男性であるから、女性であるから、年寄りであるから、若者であるから、友人であるから等々、相手がこうである立場なら、こうある『べき』

令和7年度 七五巡	巡回布教日程
四月二十四日(木)	六教区 持明寺
四月二十五日(金)	五教区 普門寺
四月二十六日(土)	三教区 八淨寺
四月二十七日(日)	八教区 萬勝寺
四月二十八日(月)	五教区 神宮寺
四月二十九日(火)	四教区 正法寺
四月三十日(水)	七教区 智積寺

令和7年度 自治布教団 教務課	真言法話の集い
●四月二十三日(火)【第二七〇回】	「地(じ)の神さま」
●五月十四日(火)【第二七二回】	「仏教と戦争(せんそう)戦後80年を迎えて」
●六月十一日(火)【第二七六回】	「五七日と山まいり」
●七月九日(火)【第二七九回】	「思い込みに囚われない」
●九月十日(火)【第二七八回】	「ようおまいり」
●十月八日(火)【第二七九回】	「お墓のお話」
●十一月十一日(火)【第二八〇回】	「秋・冬の養生 風邪の対策と治療」
●十二月十日(火)【第二八二回】	「みほとけの聲」



だ。という自身の思い込み押し付けのことをいいます。こうでなければならぬのだ。と思いつ込んでいるから、相手がその『べき』を外れたことをすると怒りが湧く、とこういうことになります。七十年代、アメリカでアングラコントロールという言葉が生まれました。これは自身の怒りを知覚し、それとうまく付き合っていく方法という意味です。ではどうすればいいかというと、これはもう自身の『べき』を緩める。自分が怒った時には、その内容を反省してもう少し自身の怒るまでの猶予を伸ばせるように少し

令和7年度 自治布教団 教務課	真言法話の集い
●四月二十三日(火)【第二七〇回】	「地(じ)の神さま」
●五月十四日(火)【第二七二回】	「仏教と戦争(せんそう)戦後80年を迎えて」
●六月十一日(火)【第二七六回】	「五七日と山まいり」
●七月九日(火)【第二七九回】	「思い込みに囚われない」
●九月十日(火)【第二七八回】	「ようおまいり」
●十月八日(火)【第二七九回】	「お墓のお話」
●十一月十一日(火)【第二八〇回】	「秋・冬の養生 風邪の対策と治療」
●十二月十日(火)【第二八二回】	「みほとけの聲」

講社課
金剛講

九月七日 第九回淡路島奉詠舞大会を一言ふるさとセンターで開催致しました。大勢の皆様にご来場頂き、同心同行の輪が会場に拡がり、盛会のように終了いたしました。十月九日、金剛講創立百周年のお待ち受け奉詠舞大会が、ロームシアター京都に於いて開催され、淡路島からは大型バス一台で参加し、全国の各地方本部からも大勢の講員様が登壇されました。本年は、愈々高野山金剛講創立百周年でございます。十月四日から十日までを百周年御詠歌ウィークとして記念大会

が開催されます。この輝かしい百周年という正当年の節目に、講員皆様と一緒に高野山へ登臨して日々のご精進された詠歌を奉納し、報恩の誠を捧げ、百周年を共に喜び迎えましょう。 檀手礼拝

「令和六年 能登半島地震」支援金の報告

令和六年能登半島地震災被災された皆様にご案内を承りました。支援金百五十万円は、支所長が本山重役の被災地訪問に同行する形で五月二十二日に能登宗務支所支所長様へお届けたいたしました。皆様の温かいご支援ご協力に深く感謝申し上げます。

入会され研修会にご参加ください。 参与会は、お大師さまのご誓願をお助けすることを目的とする高野山真言宗の公式団体です。 お大師さまや真言密教の魅力、高野山の良さを広める活動にも参加できます。参与会入会希望の方は、有縁の御寺院へお申し出ください。

令和7年度 淡路宗務支所小史	檀信徒協議会理事
【御結 婚】 長谷寺 長谷川 惇也 高山 勝樂寺 森 誠玄 松山 千明	一教区 北浦 義夫 二教区 寺西 一夫 三教区 森 計介 四教区 橋本 計介 五教区 高谷 秀男 六教区 永田 敏彦 七教区 岸本 敏彦 八教区 中田 俊一 九教区 大江 俊一

高野山真言宗淡路宗務支所	事務取扱所(庶務課)
洲本市五色町都志一三四四	多聞寺中
TEL〇七九九(三三)〇七三六	FAX〇七九九(三三)一四二九
自治布教団団長 笹津 寛照	副団長 長谷川 惇也
副団長 樹下 真快	総務 本間 敬英
庶務 森 大誠	会計 岡崎 哲秀
青年教師会会長 岡崎 哲隆	寺族婦人会会長 井上 泉



十月十六日(水)、洲本市文化体育館にて「高野山真言宗淡路宗務支所 支所檀信徒研修会(教学講習会)」災害時における安心」を開催いたしました。

当日は第一部として、本山布教師でもあります福井県弘法寺住職 齋藤智弘師に『足湯ボランティアから学んだもの』の法題のもとご法話を賜りました。

実際に足湯ボランティアで訪れた被災地の方々の様子をお話くださいました。中でも、被災された方々が心の拠り所としているものは何か、また、私たちが被災された方々と接する際に持つべき心

構えや必要とされる言動・行動をご教授いただけましたことは、とても貴重な時間となりました。

次に第二部として、住友生命大阪中央支社 法人担当部長 白川直久氏に『自然災害にそなえる保険のポイント』という題でご講話をいただきました。

様々な事態に備え保険に入られている方も多いと思いますが、白川氏には具体的な事例を挙げながら、改めて対象範囲の確認をすることの大切さをお話いただきました。

令和六年も能登半島地震をはじめ多くの災害が発生いたしました。また、本年には、阪神淡路大震災の発生から三十年が経ちます。今尚、多くの方が災害により負った傷と向かい合いながら日々を過ごしています。

今回の研修会では、そのような方々への寄り添い方、また、自身が被災した際の備え方を身につける大切な機会となりました。

令和五年三月十二日、常楽寺住職拝命。

いきなり弁天さん。聞いてないよー。

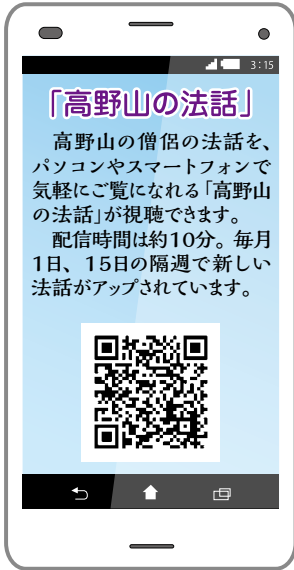
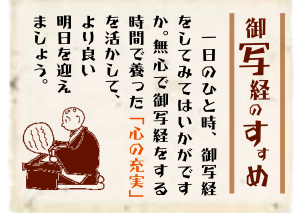
前任職 明瑞和尚は、「御託宣により四教区に決まったから、お迎えしよう。」と言っていたので、この度の安座奉迎になりました。

安平地区においても七十一

また、弁天さんの信者の方がたくさんおられることに気づかせていただきました。多くの方とご縁が出来、檀家寺から信者寺に変わったように良い経験をさせていただき、大変充実した一年を過ごすことが出来ました。

三百年近くになる淡路巡遷妙音弁財天の歴史を、途絶えさせてはいけないと実感致しました。出来るだけお迎えしやすい方法で、末永く続くことを願ってやみません。

最後になりましたが、安座奉迎に御協力頂きました頭人の支所長、弁天課、基本信者四教区御寺院、六度の祭りすべてに御詠歌を奉納してくださった大照寺詠歌講、常楽寺檀信徒、毎月の参拝者、本当に多くの方々のおかげでいただきました。皆々様にこの紙面を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございます。合掌



【御詠歌】

あなとうと おのころ島古に 國を生めりし 神の本寺 我をつつめり

開創は不詳ですが、周辺は古代の南海道が通り、その中継施設である神本駅家(みわものうまや)が置かれていました。お寺と駅家の関係は不詳ですが、「神本」なる古代地名に由来すると思われます。

下八太八幡神社の別当寺で、ご本尊様は上品(極楽浄土の最上級)の阿弥陀如来で木像です。

本堂向かって左手が薬師霊場の薬師堂です。元は大和国魂神社(二宮)の境内から、明治維新の神仏分離の際に移されました。

左端は大黒堂です。蓮の葉に乗った珍しい大黒天が六十年毎に開帳され、出世の神として信仰を集めています。

当寺の北には、国生み神話で有名な伊弉諾・伊弉冉二柱が祀られている「おのころ島神社」があります。

淡路新四国八十八ヶ所霊場 第二十五番 淡路四十九薬師霊場 第二番

ご本尊 阿弥陀如来

【御詠歌】

あなとうと おのころ島古に 國を生めりし 神の本寺 我をつつめり

開創は不詳ですが、周辺は古代の南海道が通り、その中継施設である神本駅家(みわものうまや)が置かれていました。お寺と駅家の関係は不詳ですが、「神本」なる古代地名に由来すると思われます。

下八太八幡神社の別当寺で、ご本尊様は上品(極楽浄土の最上級)の阿弥陀如来で木像です。

本堂向かって左手が薬師霊場の薬師堂です。元は大和国魂神社(二宮)の境内から、明治維新の神仏分離の際に移されました。

左端は大黒堂です。蓮の葉に乗った珍しい大黒天が六十年毎に開帳され、出世の神として信仰を集めています。

当寺の北には、国生み神話で有名な伊弉諾・伊弉冉二柱が祀られている「おのころ島神社」があります。

漫茶羅華の里

現在回り弁天さまを安座しておられるお寺です。

わこうざん としういん じんほんじ

和光山実聖院 神本寺

南あわじ市榎列下幡多五六四



支所長就任のご挨拶

質多の万華笑を含んで 諸尊眼開かん

池ノ内 地藏寺 住 職 大木 裕文

令和六年十二月二十六日、淡路宗務支所寺院総会に於きまして、全会一致をもって次期支所長に選定をいただき、令和七年二月九日の支所代議員会にて、副長七名の承認をいただきました。

高野山真言宗管長 大僧正 長谷部真道現下より辞令をいただき、役員一同質多の

支 所 長	大木 裕文
副 長 庶 務 課	野崎 康弘
副 長 会 計 課	三浦 義崇
副 長 教 務 課	岩坪 泰圓
副 長 講 社 課	三富 良圓
副 長 弁 天 総 長	國本 忠孝
副 長 弁 天 庶 務	木野本 快眞
副 長 弁 天 会 計	岡崎 哲秀
書 記	金銅 真宏
書 記	竹原 正基
自治 布 教 団	岩坪 泰圓
団 長	樹下 眞快
副 団 長	湯口 展弘
副 団 長	湯口 展弘
金剛講淡路地方本部	
総 監	三富 良圓
庶 務	林山 伸樹
会 計	山本 大雲

退任のご挨拶

都志 多聞寺 住職 鈴木 瞭 導

平成三十一年四月一日より役員の皆さまと共に二期六年の間、宗祖弘法大師さまへの報恩感謝の念をもってご奉仕させていただきまして。在任中はひとかたならぬご厚情を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

思い返せば、令和二年一月新型コロナウイルスが国内で初めて感染者が確認され、四月には全国への感染拡大により諸事業が中止・延期・縮小となりました。その中で、令和二年大師号

回り弁天さまは、安座の形ではありましたが、各御寺院・檀信徒の方々のご理解・ご協力を得て、コロナ禍であっても滞りなく巡還できました。

任期内の全ての事業は、支所下寺院御住職・教師・寺族の方々、金剛講員・参与会員・檀信徒の方々のご支援ご協力あつてのものであり、改めて厚く御礼申し上げます。

今後ともお大師さまのご加護の下、淡路宗務支所の更なる発展と皆さま方のご多幸とご健康をお祈り申し上げ退任のご挨拶とさせていただきます。



高野山真言宗 兵庫ブロック教師研修会

九月二十六日(水)・二十七日(金)、洲本温泉 淡路インターナショナルホテルザ・サンプラザにて「高野山真言宗兵庫ブロック教師研修会」が、淡路宗務支所担当のもと、各地区より七〇名の住職方に参加をいただき開催致しました。

一日目には十三時からの開会式の後、神戸マリン総合法律事務所 西口竜司先生、田村行政書士事務所 田村実貴雄先生を講師としてお迎えし、『終活のイロハ』寺院から始まる終活のお話』の講題でお話をいただきました。

近年、『終活』への関心が高まる一方で、つながりの中で生きているという視点が抜け落ちてしまいがちです。終活において気をつけるべき点をお話いただき、亡くなればすべてが終わりでなく、死後改めて生まれるつながりについてもご教授いただきました。

休憩の後、中国古箏演奏。後に、中国古箏演奏。後に、中国古箏演奏。

奏家 伍芳(ウーファン)先生により『時空を超える悠久の響き』と題して演奏が行われました。

多くのアーティストや狂言・人形浄瑠璃・和太鼓とコラボレーション経験をもつ伍芳先生の古箏の音色は、優しく聴衆の心に寄り添い、過去・現在・未来の命のつながりを示してくださるような時間となりました。

二日目は、広島支所下 宮島の大願寺 平山真明僧正をお迎えし、『弁天信仰について』の講演を賜りました。

淡路島には「回り弁天」という信仰がありますが、大願寺は日本三大弁財天の一つ厳島弁財天を守られております。平山僧正には、宮島の歴史にも触れながら、古来より多くの方々の信仰を集めてきた厳島弁財天についてお話をいただきました。

布教実践では、淡路支所 岡崎哲隆師・但馬支所 草壁祐瑞師の二名が登壇致しました。岡崎師はご自身の特技を

春の集い	4月17日(木) 午後7時～9時
場所/ 観音寺	洲本市 池内714 講師/ 護國寺 三富良圓 曲目: 新しいは歌
夏の集い	7月17日(木) 午後7時～9時
場所/ ハ浄寺	淡路市 佐野834 講師/ 神宮寺 本多集大 曲目: 真言教主大日如来讃偈和讃
秋の集い	10月17日(金) 午後2時～4時
場所/ 賢光寺	南あわじ市 榎列小榎列283 講師/ 尼ガ寺 稻井良俊 曲目: 観音大慈
冬の集い	1月17日(土) 午後2時～4時
場所/ 延命寺	南あわじ市 神代園部1869-1 講師/ 威光寺 林山伸樹 曲目: 光明真言和讃

活かし、草壁師はご自身の経験を踏まえた布教を行い、参加者は二人のお話しに、静かに耳を傾けておられました。閉会式では、次回担当支所の播磨宗務支所支所長 新弘正師より挨拶をいただきました。盛会のもと閉会となりました。二日間の研修会を通し、信仰や歴史、命のつながりに触れることが出来、改めて寺院の役割を考える機会となりました。

令和7年度 高野山真言宗金剛講 淡路地方本部・教師会 ご詠歌四季の集い (敬称略)